

循環器領域における デジタルヘルスの展望

企画：田村雄一

(国際医療福祉大学/
株式会社カルディオインテリジェンス)

循環器領域におけるデジタルヘルスに関しては、古くから植込型の機器すなわちペースメーカーや心電計などによって実現され、これらはリアルタイムモニタリングや遠隔モニタリングなどの技術を介して不整脈患者の早期発見や介入および心不全の評価などにおいて循環器診療に多大な貢献をしてきた。

近年、コンピューターの発達による計算資源の増加やAIの発展とともに従来の植込型装置によるモニタリングとは異なるアプローチによるデジタルヘルスの領域が生まれつつある。具体的には遠隔診療・遠隔医療、行動変容を伴う医療機器アプリケーション、AIによるリスクの早期発見などがこれにあたる。これらの技術は循環器領域における新たなフロンティアとして注目を集めており、今までの循環器診療を大きく変革するポテンシャルを秘めている。例えば循環器疾患のリスクを早期に発見し介入することができたり、薬物治療やデバイス治療以外の治療の選択肢を広げたり、心不全パンデミックにおける診療リソースの不足を補ったりなどの効果が期待される。

そこで今回の座談会ではこれら新しい循環器におけるデジタルヘルスの発展におけるフロントランナーの先生達をお招きし、日本において開発および社会実装が進んでいるシーズの現在地と今後の展望、および米国におけるAIの社会実装の現状について、読者にとっても深い理解を目指したディスカッションを行った。

読者の皆さんとともに、循環器領域の新たな発展の展望を描く機会になれば嬉しく思う。



HEART'S
Selection